

## 第1日目 3月22日(土)

|  |            |           |
|--|------------|-----------|
| 大会長講演  | 9:50~10:50 | メインホールB・C |
| グループが生まれる“場” 一時と空間の中で舞い踊るー   |            |           |
| 大会長：神宮 京子（特定医療法人群馬会群馬病院）<br>司 会：田辺 等（北仁会旭山病院／札幌こころの診療所）  |            |           |
| <b>大会長プロフィール</b><br>ダンス／ムーブメントセラピスト。JAGP 認定グループサイコセラピスト。公認心理師。米国ニューヨーク市立大学ハンターカレッジ大学院にて学び、アメリカ・ダンスセラピー協会認定資格取得。帰国後は精神科領域でダンス／ムーブメントセラピーの実践を続ける傍ら、母子保健や大学での授業に携わってきている。DMTLab を主宰し、ワークショップ、トレーニング、スーパービジョン、リトリートの機会を提供。現在、アートベースの研究にも関心がある。 |            |           |

|   |             |           |
|---|-------------|-----------|
| 特別講演  | 11:00~12:00 | メインホールB・C |
| わたしからはじまる ー悲しみと表現のあわいー  |             |           |
| 講 師：入江 杏（ケアミーツアート研究所）<br>司 会：神宮 京子（特定医療法人群馬会群馬病院）   |             |           |
| <b>講師プロフィール</b><br>入江 杏（いりえ あん）<br>東京都生まれ。国際基督教大学卒業。<br>文筆家。ケアミーツアート研究所代表。「ミシュカの森」主宰。<br>上智大学グリーンケア研究所非常勤講師。世田谷区グリーンサポート専門部会委員。<br>グリーンケアやグリーンリテラシーについて、行政・学校・企業などで講演や研修、勉強会を開催。悲しみの発信から再生を模索する人たちのネットワークづくりに努める。著書に『わたしからはじまる 悲しみを物語るということ』（小学館）、『悲しみとともにどう生きるか』（集英社新書）、『悲しみを生きる力にー被害者遺族からあなたへ』（岩波ジュニア新書）など。 |             |           |

|                  |             |           |
|------------------|-------------|-----------|
| 代議員会             | 12:10~12:25 | 中会議室 302B |
| 日本集団精神療法学会第42回総会 | 12:30~13:30 | メインホールB・C |

|   |                                  |           |
|---|----------------------------------|-----------|
| 一般演題Ⅰ 「デイケア／入院治療」                             | 14:00～15:30                      | 中会議室 202A |
| 司 会：小宮 敬子（NPO 法人ダルク女性ハウス）<br>水野 高昌（医療創生大学）    |                                  |           |
| 1-1 リワークデイケアで行う認知行動療法－ワークシートを活用したプログラムで起こること－ | 小林 千恵（特定医療法人群馬会群馬病院）<br>星野 大（同上） |           |
| 1-2 「ボケ」る不安に向き合う－認知症グループの経過から－                | 勢島 奏子（医療法人すずらん会たろうクリニック）         |           |
| 1-3 精神科作業療法を集団精神療法的視点から考える～グループを経験しての私の変化～    | 石川 見佳（特定医療法人群馬会群馬病院）             |           |

|   |   |           |
|---|---|-----------|
| 一般演題Ⅱ 「学校／大グループ」  | 15:45～17:15   | 中会議室 202A |
| 司 会：野村 学（オリブ山病院／沖縄県スクールカウンセラー）<br>吉野 比呂子（昭和女子大学）          |   |           |
| 1-1 公立小学校における不登校児童を対象とした校内アートグループの実践～関わり、育ち、変わり続ける～       | 倉石 聡子（公立小学校スクールカウンセラー）<br>高橋 洋子（公立小学校学習支援員）<br>多久和 奈美子（同上）<br>園井 陽子（同上） |           |
| 1-2 グループ療法的内的対象の発達とそれを阻むもの（4） Dr.Yの逮捕、拘留、公判とコミュニティ・ミーティング | 浅田 護（医療法人あさだ会浅田心療クリニック）   |           |
| 1-3 グループにおける「喪失」と「暗黙」精神科デイケアのコミュニティミーティングを通じて             | 埜 雄士（医療法人あさだ会浅田心療クリニック）<br>浅田 護（同上）                                     |           |

|   |             |           |
|---|-------------|-----------|
| 事例検討Ⅰ 会員のみ  | 14:00～17:15 | 中会議室 201A |
| 児童心理治療施設に入所する高校生の言語媒介グループ<br>～グループの“あるセッション”を共に体験する～  |             |           |
| 発 表 者：浦岡 祐奈（社会福祉法人風と虹筑後いずみ園）<br>司 会：岩淵 智恵美（足立区障がい福祉センター）<br>スーパーバイザー：宮城 崇史（京都桂病院／児童心理治療施設ももの木学園）  |             |           |
| 概 要：今回は、被虐待経験を持ちながら高校生活を送るこどもたちの希望により生まれた、高校生の言語媒介グループ Child-Staff Meeting の、ある 1 セッションをシナリオロールプレイで体験してもらい、グループの効果や課題、今後の展望について参加者と共に考えたい。本グループは、被虐待経験という大きなトラウマを抱えながら施設からの退園、進学、自立といった大きな困難に |             |           |

向かっていく高校生を支えるグループである。これまでの8年間、グループ内で弱音を共有することで児童を支えてきたが、児童の所属や機能の差が変化していく中でどのようにグループを展開していくのか、皆様と語り合うことができれば幸いである。

体験グループ I 会員のみ

14:00~17:15

小会議室 304

Psychotic-like-anxiety を体験する

コンダクター : 権 成鉉 (医療法人ミネルヴァクリニックソフィア)  
コ・コンダクター: 古賀 恵里子 (大阪経済大学人間科学部)

概要: psychotic-like-anxiety を体験する。集団の参加メンバーについてフロイトは神経症的 (神経症型の行動) になるといい、ピオンは精神病的 (精神病型の行動) になると述べたが後者についてガンザレインはその基盤は psychotic-like-anxiety であると指摘した。この体験グループに参加することでこれを体験し、集団療法家としてのコンテナー機能を高めることに役立てて頂くことが目的である。

基礎講座

14:00~17:15

中会議室 302B

基礎講座

講師: 菅 武史 (押尾クリニック/広島市スクールカウンセラー)  
田中 怜子 (社会復帰施設 C.C.助言者等)  
司会: 鎌田 明日香 (伽羅堂/札幌市スクールカウンセラー)

概要: 「基礎講座」とは、集団精神療法に関する基礎的な知識を紹介し、講義だけでなく参加者も含めた相互交流を通じて集団精神療法について学ぼうというプログラムです。最初に集団精神療法に関する基礎的な講義を行い、その後に講義内容や日々の集団の実践に関する全体でのディスカッションを行う予定です。講義とディスカッションを通じて、参加される方がすでに関わっておられる、あるいはこれから関わろうとされている、様々な集団の実践のヒントを提供できればと考えています。

市民公開講座 アディクション

14:00~17:15

メインホール B・C

アルコール・薬物・ギャンブル・その他の依存症 — 今、何ができるのか —

講師: 田辺 等 (北仁会旭山病院/札幌こころの診療所)  
司会: 千田 真理子 (特定医療法人群馬会赤城高原ホスピタル)  
永尾 奈生実 (同上)  
樋田 洋子 (同上)

概要: 市民公開講座「アディクション」では依存症をテーマに、前半は当学会理事長の田辺等氏による講演を行う。後半は県内の自助グループの方にグループの紹介や体験談をお話しいただく。さらに参加者の皆さんも交えてディスカッションの時間も設けているので、ご興味のある方の参加をお待ちしております。

大会企画ワークショップ I

14:00～17:15

中会議室 201B

AMBIT 入門

第一部：メンタライジングおよび AMBIT 入門

企画者：渡部 京太（特定医療法人群馬会群馬病院）  
西村 馨（国際基督教大学）

概要：第一部では渡部と西村がメンタライジングおよび Adaptive Mentalization Based Integrative Treatment (AMBIT) の鍵概念を解説します。臨床的な組織であっても、職種が異なり、役割が異なるために、子どもの見方が異なり、職種間の対立を生むことが少なくありません。どちらが正しいかということではなく、その違いに着目し、そしてメンタライズしていく。「つなぐ対話」を通して対処し、より効果的に機能するために取り組める課題を見つけていくのが AMBIT です。

第二部：The AMBIT approach: Learning about implementation in the real world  
(AMBIT のアプローチ：リアルな世界での導入について学ぶ)

司会：渡部 京太（特定医療法人群馬会群馬病院）  
西村 馨（国際基督教大学）

講師：James Fairbairn (Anna Freud)  
※講師のみ Zoom によるオンライン参加となります。

概要：第二部では James Fairbairn 氏に「AMBIT のアプローチ：リアルな世界での導入について学ぶ」というタイトルで、AMBIT とは何か、AMBIT を導入していく際の実践的な課題について講演していただきます。James Fairbairn 氏は、これまで主に英国の国民医療サービス (NHS) における児童および思春期青年期のメンタルヘルス部門などで働いた経験を持ち AMBIT の訓練を受けました。現在もアンナ・フロイトでの仕事と並行して児童および思春期青年期のメンタルヘルス部門での実践を続けておられます。

学会企画ワークショップ I 倫理委員会

14:00～15:30

小会議室 303

“私たち”の倫理綱領を作る –改訂版『倫理綱領』本文の構成を考える–

企画者：菊地 寿奈美（京都市スクールカウンセラー）  
武井 麻子（Office-Asako）  
池田 望（札幌医科大学）  
小川 悠介（特定医療法人群馬会群馬病院）  
白柿 綾（聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科）  
松井 朋美（特定医療法人群馬会群馬病院）  
岡島 美朗（自治医科大学附属さいたま医療センター）  
嶋田 博之（東日本少年矯正医療・教育センター）  
高橋 馨（杉並区子ども家庭部子ども家庭支援課）  
高橋 裕子（大阪樟蔭女子大学・大学院）  
褒岩 秀章（プリメイラ）

概要：本学会では、現在「倫理綱領」の改訂を進めています。昨年度の学術大会ワークショップでは「倫理綱領」の前文（案）を提案し、日常の臨床活動の中での倫理的ジレンマ等についても話し合いました。今回の学術大会では、引き続き、「倫理綱領」改訂作業を進めるために本文部分の構成・内容について倫理委員会案を提示します。集団精神療法を行う多職種専門職の集まる本学会の会員にとって、研究・実践活動における倫理的な側面を考え、話し合う際の“拠り所”になる「倫理綱領」を作るために参加者と検討したいと考えています。多くの方にご参加いただきたいです。

学会企画ワークショップⅡ 相互支援委員会

14:00～17:15

中会議室 302A

災害とメンタルヘルスに関する相互支援グループ

企画者：山本 創（石橋病院／コミュネット楽創）  
 安部 康代（安田病院）  
 高 富栄（医療法人ココロのクリニック）  
 高林 健示（東京集団精神療法研究所）  
 長友 敦子（宮城県中央児童相談所）  
 橋本 明宏（慈雲堂病院）  
 針生 江美（宮城大学）  
 藤澤 美穂（岩手医科大学教養教育センター）  
 藤 信子（所属なし）

概要：災害とメンタルヘルスに関する相互支援グループは、「災害とメンタルヘルス」をテーマとして参加者が自由連想的に対話をする体験グループです。災害とその支援に関わっての感情や思考、記憶はなかなか語られ難いものですが、グループという容れものの中でそれを相互的に語り-聴く体験をすることは、異なる体験や立場を有する参加者に対する対人的なつながりを生み、各々を支え、視野を拓げ、思索を深めることを可能とします。またそれが、いつか災害支援の場に立つことがあったときに、無力感や罪責感に圧倒されずにその場に立って在ることを可能にするのだと考えます。災害支援に赴いた経験のある方だけではなく、支援に関心がある方、自身が災害を体験した方、行動はしていないが気になっている方など、災害とメンタルヘルスに関することに関心がある様々な立場の方の参加を歓迎します。体験グループの設定は以下の通りです。時間:90分×2セッション 定員:30名

自主企画ワークショップⅠ

15:45～17:15

小会議室 303

田原明夫の仕事 関りとグループ

企画者：藤 信子（所属なし）  
 関 百合（クボタ心理福祉研究所）  
 岸 信之（合同会社 Work）  
 樋口 智嘉子（同志社大学カウンセリングセンター（学生相談室）／としもりクリニック）  
 川合 裕子（小阪病院）  
 鈴木 純一（東京集団精神療法研究所）

概要：田原明夫会員は2005年～2011年まで日本集団精神療学会の理事長を務め、また長年にわたって京都の精神医療に貢献し、京都集団精神療法研究会を牽引していった。本ワークショップでは、2023年に亡くなった田原明夫の仕事を振り返る機会としたい。田原の臨床を振り返る時に頭に浮かぶのは、精神科治療の第一段階は「ホッとして安らぎを得る」ということだと、いつも言われていたことだった。このワークショップは、田原の仕事について考えるため、岸信之に京都大学付属病院デイケア、樋口智嘉子に京都市立病院と、それぞれにおける患者との関わりについて話してもらおう。また京都集団療法研究会で見られた田原の視点の特徴についても、川合裕子が話題提供をする。そして指定討論者の鈴木純一から、コメントをもらう。その後、参加者全員でのグループ体験の中で、田原の精神科臨床の特徴について、考えてみたい。

自主企画ワークショップⅡ 会員のみ

14:00～15:30

中会議室 301A

サイコドラマ入門(2) -サイコドラマを(ほとんど)体験したことのない集団療法家のために-

企画者：前田 潤 (室蘭工業大学/札幌サイコドラマ研究会)  
野本 益代 (札幌市スクールカウンセラー)

概要：国際的にも我が国の集団精神療法家もサイコドラマを体験したことがない、という人が圧倒的に多い現状がある。それはなぜか。それは体験する機会が少ない、ということが大きな要因ではないか。そこで発表者らはサイコドラマ(ほとんど)未経験者を対象とした自主シンポジウムを昨年より企画し、この度は2回目となる。私たちの実人生は現実を生きるだけでなく、大半の時間を空想や想像世界を生きている。サイコドラマはその空想や想像を具体的かつ実際に体験しながら発展を図り、現実世界を捉えなおす面白くも味わい深い体験世界を提供してくれます。是非体験してみてください。

自主企画ワークショップⅢ

15:45～17:15

中会議室 301A

集団における鏡機能と身体

企画者：鍛冶 美幸 (文教大学)

概要：Winnicott (1971/1979) は、母親の鏡役割の重要性を示唆しそれを治療関係に置き換えて論じている。セラピストという鏡は周囲からの刺激に揺らぎ、逆転移の中で屈折した像を結ぶことがある一方で、身体性をそなえた全体的関わりあいはその奥行きをもたらし、投影同一化を巡る心的作業の空間をもたらす。Foulkes (1957)は、集団内のかかわりあいにおいて相互的な鏡映反応が生じるとし、そこでは内的対象関係が身体次元で映し出されると述べている。とくに集団での身体活動においては、他者のまなざしの中に自らの身体を見出し、さらに他者の身体に映し出された自らの身体と出会うこととなろう。本ワークショップでは、ダンス/ムーヴメント・セラピーの基本技法であるミラーリングを用いていた簡単な動作体験やディスカッションを通して、他者とともに自らの身体に出会う体験について探索したい。

自主企画ワークショップⅣ

14:00～15:30

中会議室 301B

学校〇グループ ——グループが生まれるとき——

企画者：梶本 浩史（東京都公立学校スクールカウンセラー）  
 相田 信男（特定医療法人群馬会群馬病院）  
 大橋 良枝（京都文教大学）  
 加藤 隆弘（九州大学大学院医学研究院精神病態医学）  
 鎌田 明日香（伽羅堂／札幌市スクールカウンセラー）  
 木村 能成（新潟医療福祉大学）  
 高 富栄（医療法人ココころのクリニック）  
 菅 武史（広島市教育委員会スクールカウンセラー）  
 那須 里絵（早稲田大学社会的養育研究所）  
 野村 学（オリブ山病院・沖縄県スクールカウンセラー）  
 廣瀬 真理（立教女学院）  
 松尾 真規子（駒沢女子大学看護学部）

概要：自主ワークショップ（WS）「学校〇グループ」は学校・教育現場でグループの視点や方法を活用したい人が集まり、相互交流から学びや気づき生まれることを目指しています。JAGP42では「グループが生まれるとき」をテーマにしてセッションを行います。起点を振り返るとJAGP33の会期中にスクールカウンセラーをしている会員同士で話したときがはじまりで、ここからJAGPの年次学術大会において学校教育領域のWSを積み重ねてきました。草の根の学校・教育現場を耕している皆さんと学びあいたいという気持ちがWS開催の原動力です。ぜひ、ご参加ください。

自主企画ワークショップⅤ

15:45～17:15

中会議室 301B

犯罪加害者に対する集団精神療法

グループの枠組みに入りにくいメンバーとのセッション場面を用いたロールプレイ演習

企画者：ジェイムス 朋子（京都橘大学）  
 犬塚 貴浩（大阪刑務所）  
 篠山 義郎（加古川刑務所）  
 田村 真二（和泉学園）  
 安部 尚子（加古川刑務所）  
 赤松 愛実（加古川刑務所 非常勤職員）

概要：犯罪加害者を対象とする心理学的プログラムを実施するとき、彼らの特徴のひとつとして存在する「枠組みへの入りにくさ」「枠組みへの抵抗」が大きな困難となることがある。しかしながら、グループという「枠組み」との試行錯誤を十分に体験しながら、「枠組み」の安全感を体感し、他者と出会っていくプロセスは、彼らの更生においてかけがえのないものとなり得る。本ワークショップでは、仮想の刑事施設内グループ・プログラム事例の短いシナリオを用い、犯罪加害者臨床においてしばしば見られる「枠組みへの抵抗」場面について、刑事施設職員によるデモンストラーションを行った上で、参加者全体でロールプレイ演習を行う。

|                     |             |            |
|---------------------|-------------|------------|
| CGS ミーティング（教育研修委員会） | 17:45～18:30 | メインホール B・C |
|---------------------|-------------|------------|

## 第2日目 3月23日（日）

|               |            |           |
|---------------|------------|-----------|
| 一般演題Ⅲ 「小グループ」 | 9:00～10:30 | 中会議室 201B |
|---------------|------------|-----------|

|  |                           |  |
|--|---------------------------|--|
| 司 会：太田 裕一（静岡大学）<br>長谷川 麻弓（あつぎ心療クリニック）    |                           |  |
| 1-1 クレプトマニア（窃盗症）の患者を対象とした自由連想グループ        | 加藤 祐介（特定医療法人群馬会赤城高原ホスピタル） |  |
| 1-2 オンラインによる One-day 半構成的エンカウンター・グループの事例 | 野島 一彦（九州大学名誉教授）           |  |
| 1-3 メンタライゼーションに基づく治療(MBT)の心理教育と集団療法      | 荻本 快（相模女子大学）              |  |

|                    |             |           |
|--------------------|-------------|-----------|
| 一般演題Ⅳ 「児童・思春期・青年期」 | 10:45～12:15 | 中会議室 201B |
|--------------------|-------------|-----------|

|   |                                      |  |
|---|--------------------------------------|--|
| 司 会：高 富栄（医療法人ココころのクリニック）<br>樋口 智嘉子（同志社大学カウンセリングセンター（学生相談室）／としもりクリニック） |                                      |  |
| 1-1 児童心理治療施設における治療共同体 被虐待児への環境療法                                      | 菊池 清美（社会福祉法人風と虹筑後いずみ園）               |  |
| 1-2 甘えの再生とメンタライゼーション  | 林 美江（NPO 法人若者支援ひろば三愛）<br>巖 秀章（プリメイラ） |  |
| 1-3 自殺企図者の多い総合病院精神科病棟で始めた思春期女子グループについて                                | 吉村 裕太（福岡大学精神医学教室）                    |  |

|               |            |           |
|---------------|------------|-----------|
| 一般演題Ⅴ 「技法・理論」 | 9:00～10:00 | 中会議室 202A |
|---------------|------------|-----------|

|   |  |  |
|---|--|--|
| 司 会：多喜田 恵子（岐阜保健大学看護学部）<br>徳丸 享（立正大学）  |  |  |
| 1-1 セラピストの介入による「今、ここで」の体験の語りとその効果 SCT（Systems-Centered Therapy）の実験グループの検討を通じて | 鴨澤 あかね（同朋大学）<br>大島 寿美子（北星学園大学）<br>水川 喜文（北星学園大学）<br>泉屋 有理（相川記念病院） |  |
| 1-2 実存的要因・理想化・ドロップアウト   | 柴田 応介（アパリクリニック）  |  |

## 事例検討Ⅱ

9:00～12:15

中会議室 201A

児童思春期病棟における男子中学生グループの展開、構造やその工夫  
男子中学生が「集まって過ごす時間」を「言語のグループ」として再構築した経過とこれからの展開について

発表者：前田 滉貴（特定医療法人群馬会群馬病院）

田中 徹哉（同上）

司会：針生 江美（宮城大学）

スーパーバイザー：西村 馨（国際基督教大学）

概要：A病院は461床を持つ単科精神科病院である。X年2月より児童思春期病棟24床が新設された。児童思春期病棟では、入院治療プログラムの一つとして男子グループ、女子グループが隔週ごと交互で1回60分間行われていた。創設期の男子グループは同性の児童で集まって共同作業に取り組む活動が主だった。その後児童病棟の増床や小学生患者の入院が増え始めたことでグループの構造が再構築され、「男子中学生グループ、女子中学生グループ、小学生グループ」という3つのグループが週1回、同日同時間で行われることとなる。発表者は「男子だけで共に過ごす時間」だった男子中学生グループを「言語のグループ」としてチームメンバーと共に少しずつ構造化していった。その過程を事例検討として発表し、参加者と共に今後の展開について考察を試みたい。

## 体験グループⅡ

9:00～12:15

小会議室 304

## 体験グループⅡ

コンダクター：関 百合（クボタ心理福祉研究所）

鈴木 純一（東京集団精神療法研究所）

概要：日本集団精神療法学会では研修の場として、座学やスーパービジョンと並んで「体験グループ」を大切にしてきました。体験グループでは、実際に自分がグループのメンバーとなり、身をもってグループを体験することで、「メンバーが普段どのように体験しているのか」を学ぶ機会になるからです。この「体験グループⅡ」は、グループ体験が初めての方、グループを学び始めて間もない方にも参加いただける「体験グループ」です。これまで基礎講座に参加されたことのある方、もしくは今大会で基礎講座に参加される方々に、実際にグループを体験していただく機会を提供するプログラムでもあります。また、体験グループ参加が久しぶりの方やもう一度体験したいと思われる方々もぜひご参加ください。このグループには主題はありません。その時に思いついたこと、感じたことを言葉にしてください。また、当日はセッションを記録のため録音いたします。

## 市民公開講座 児童思春期病棟

10:00～11:30

メインホール B・C

子どもをはぐくむ精神科医療 ―群馬病院で児童精神科をはじめました―

講師：渡部 京太（特定医療法人群馬会群馬病院）

司会：黒江 美穂子（同上）

概要：2023年2月1日に群馬病院は児童思春期病棟・外来棟を開設しました。外来での診療と33床の専用病棟からなっています。外来での診療は、治療効果が認められている治療プログラムを、さらにご家族がお子さまを支えるサポーターになっていただけるような心理教育プログラムを用意しています。不登校が長期化したお子さまやさまざまな症状が深刻化して家庭生活が困難になったお子さまには、入院治療に導入し、仲間関係のつまずきへの医療的な支援や病院内学級での学習サポートを行います。児童思春期精神医学の領域では、不登校やひきこもり、神経発達症、自傷や自殺、家庭内暴力、虐待、いじめなどの問題が深刻になっているように思えます。群馬病院の児童思春期精神科ではどのような支援を行っているのかを具体的にお話ししたいと思います。

## 大会企画ワークショップⅡ

9:00～12:15

メインホール A

### こうえん 出入り自由の体験グループ

企画者：野中 稔（株式会社保健同人フロンティア）  
藤澤 希美（横浜市立大学医学部看護学科）  
佐藤 裕宗（医療法人社団草思会錦糸町就労支援センター）

概要：「こうえん」は、出入り自由の体験グループです。体験グループについて、興味がある方、少しだけ入ってみたい方、プログラムの合間に参加することもできます。もちろん、初めから参加もできます。ぜひ、ご参加ください。

## 大会企画ワークショップⅢ

9:00～12:15

中会議室 302A

### 芸術の知による探究 — 『島 よくある物語』 (Greder) にみる、個、グループ、その間—

企画者：高田 由利子（札幌大谷大学）  
伊東 留美（南山大学）  
尾上 明代（立命館大学）  
倉石 聡子（アップコンセプト・スタジオ）  
神宮 京子（特定医療法人群馬会群馬病院）

概要：アートベース・リサーチ(以下、ABR)は、教育学、社会学、臨床心理学（芸術療法）の研究者の間で展開されています。芸術療法の領域で ABR をいち早く展開してきた McNiff(1998)は、ABR は芸術を科学の中に融合させることで、システムティックな手続きの中にあっても豊かな人間の営みや自然現象が現れると捉えています。また、クリエイティブ・アーツセラピー（以下、CAT）の領域では芸術の創造プロセスそのものがセラピーを促進するという理解のもと、ABR は CAT 実践の神髄を探究する手法としても適していると言えます。本ワークショップでは、「島」(Greder) の物語から“異質な存在との出会い”が人に何をもたらすのかをテーマに探索します。言語以前の感覚的イメージ体験を通して ABR のプロセスを体験しながら、個々人の体験を基にグループと共に探究することを試みたいと考えています。

## 大会企画ワークショップⅣ

9:00～12:15

中会議室 302B

## 自主ワークショップが生まれたとき ――今、レビューする

企画者：相田 信男（特定医療法人群馬会群馬病院）  
 石川 見佳（同上）  
 片岡 圭美（医療法人社団綾瀬病院）  
 高林 健示（東京集団精神療法研究所）  
 林 公輔（学習院大学文学部心理学科）  
 松原 いくみ（特定医療法人群馬会群馬病院）  
 山野上 典子（山口県総合医療センター）

概要：過去16年間の大会における自主ワークショップをめぐり、まず当時の企画・発表者に集まってくださるよう声をかけた。当日はこの方々に「自主ワークショップが生まれたとき」の状況、実施の状態、その後の感想などについてふり返って触れていただこうと考える。他方、こうした「レビュー」を基に、企画・発表者以外の参加者を加えて交えた大グループにおいて、学会大会でのワークショップの意味、その他のプログラムの意義、またそれぞれで体験したこと、今後に期待することなどについて、広く相互討論できる機会を生み出したい。

## 学会企画ワークショップⅢ 渉外委員会

9:00～10:30

小会議室 303

## 渉外委員会アンケート調査報告 私たちを知ることから、学会のこれからを考える

企画者：高橋 馨（杉並区子ども家庭部子ども家庭支援課）  
 嶋田 博之（東日本少年矯正医療・教育センター）  
 桜庭 拓郎（恵愛会青木病院）  
 林 公輔（学習院大学文学部心理学科）  
 片岡 圭美（医療法人社団綾瀬病院）  
 月江 ゆかり（特定非営利活動法人ヒューマンケアクラブストライド）  
 大橋 良枝（京都文教大学）

概要：渉外委員会は集団精神療法の理論と実践の進化、発展のために、他機関との連携や研究協力を図る活動をしています。第39回学術大会からは毎年ワークショップを開催し、参加者と共に渉外活動や学会のあり方について議論を重ねてきました。渉外活動の一環として、2024年秋には他機関連携や研究協力を展開するにあたっての、会員へのアンケート調査を実施しました。今回のワークショップではアンケート調査の結果を報告すると共に、より具体的に今後の渉外活動について参加者の皆様と議論したいと考えています。渉外活動への関心の有無だけでなく、学会の今後について考えたい方や非会員の方にも参加いただき、幅広い視点から議論したいと考えています。ぜひ、ご参加ください。

自主企画ワークショップIX

10:45~12:15

中会議室 202A

からだと集団精神療法 -精神分析、メンタライゼーション、身体心理療法の出会い-

企画者：鎌田 明日香（伽羅堂／札幌市スクールカウンセラー）  
 大橋 良枝（京都文教大学）  
 加藤 隆弘（九州大学大学院医学研究院精神病態医学）

概要：精神療法は従来、言語コミュニケーションを通して感情や認知を扱うのが主流とされてきた。しかし、近年、精神療法に生理学や脳科学の知見を組み入れられるようになってきている。発表者らも、精神分析と脳科学（加藤）、メンタライゼーション（大橋）、身体心理療法（鎌田）を専門として統合的に実践している。集団精神療法においても、時代の流れとともに新しいグループが“生まれて”きていると考えられるが、その実際について共有する機会がなかった。たとえば、強い身体反応によってグループからドロップアウトする可能性のある「初期不安」時の過覚醒状態を、各技法ではどのように理解し取り扱っているのだろうか。共通点や異なる点はあるのだろうか。また、オンラインの台頭で、からだ置き去りにされがちになっている現状も見逃せない。グループの中での“からだ”に注目することで、参加者とともに新しいグループの可能性を模索してみたい。

自主企画ワークショップ

10:45~12:15

小会議室 303

看護管理者さん、お集まりください —支援する人は支援される必要がある—

企画者：月江 ゆかり(特定非営利活動法人ヒューマンケアクラブストライド)  
 白柿 綾（聖カタリナ大学 看護学部 看護学科）

概要：このワークショップ（以下、WS）は、今年で3回目となる元看護管理者による看護管理者のためのWSです。企画者自身が看護管理者として苦戦した経験を持つことから、病院や施設等で看護管理者として働いている、もしくは携わった経験のあるメンバーに呼びかけ、共に語り合い、自由に語り合い、支え合うことを目指して毎年企画しています。今、現場は企画者が看護管理者として働いていた頃より、さらに過酷で深刻な状況になっています。現場で組織を維持するために奮闘しておられる看護管理者さん、またこれまで頑張ってきた元看護管理者さん、いつも気になりつつ置き去りにしているかもしれない自分の思いを語り合い、自分たちで“とまり木”のような場を一緒に作りませんか。皆さまのご参加をお待ちしております。

自主企画ワークショップVIII

9:00~10:30

中会議室 301A

治療共同体のメンバー体験としての Learning from Action Working Conference

企画者：川合 裕子（小阪病院）  
 古賀 恵里子(大阪経済大学人間科学部)  
 田中 怜子（精神障害者社会復帰施設の会議の助言者/カウンセリング）  
 樋掛 忠彦（つどいのクリニック柿田）  
 宮城 崇史（京都桂病院／児童心理治療施設ももの木学園）

概要：治療共同体等で働く実践者のためのトレーニング Learning from Action Working Conference（以下 LfA）が 2017 年（JAGP 共催）と 2019 年（JAGP 協賛）にディレクターらを海外から招聘して日本で開催された。本ワークショップ（以下 WS）の企画者はそのオーガナイザー、スタッフ、参加者である。本 WS の目的は 2000 年に考案されイタリアで進化した LfA が日本での参加者にもたらした影響を共に振り返り言葉にし理解を深め、LfA の意義について話し合うことである。それは治療共同体のエッセンスの理解にもつながるだろう。方法はフィッシュボウル形式のグループ。LfA 経験者は内側サークルで 2 泊 3 日の LfA 体験の影響を現時点でどのように認識しているかを話し合う。LfA 未経験者は外側サークルからそのやりとりを観察し、想起したことや疑問を WS 参加者全体の話し合いに持ち込む。

自主企画ワークショップIX

10:45～12:15

中会議室 301A

小集団精神療法を基礎から学ぶ会 ―グループサイコセラピストのリーダーシップについて―

企画者：塚瀬 将之（成田心理臨床オフィス）  
 加本 有希（立教大学教育研究コーディネーター）  
 塚瀬 佳澄美（成田心理臨床オフィス）

概要：「小集団精神療法を基礎から学ぶ会」は、小集団精神療法の基礎的なテーマについての理論的な概観とともに、体験グループ（ロールプレイ）、ディスカッションなどを通して体験に根ざした学びを深めていく場の提供を目的としている。今回は「グループサイコセラピストのリーダーシップ」をテーマに学びを深めていきたい。当日は、グループサイコセラピストのリーダーシップについて総論的な解説を行った上で、手法の異なる 2 つの体験グループを実施し、グループサイコセラピストのリーダーシップのあり方について比較・検討し学びを深めていきたい。なお、本ワークショップは、小集団精神療法に関心があり学んでみたい方、自分でグループを始めてみたい方、グループを立ち上げたばかりの方で、小集団精神療法の基礎的な概念を丁寧に学んでみたい方を対象とする。

自主企画ワークショップX

9:00～10:30

中会議室 301B

サイコドラマ体験ワークショップ

企画者：高橋 美紀（S&C サイコドラマ・ラボ）  
 藤巻 加奈子（誠心会神奈川病院）

概要：サイコドラマとは J.L.モレノが創始した、即興劇を用いて行う集団精神療法です。サイコドラマは、グループの中で身体を用いて自分自身や他者への理解を深めてゆくプロセスに大きな特徴があります。SST やロールプレイなど、アクションを用いた様々な技法の源流にあるのがサイコドラマです。このプログラムでは、表題にあるようにサイコドラマの運営や実際に参加者に体験していただくことを目的としています。セッションの中で用いられる諸技法については、ディレクターと呼ばれるグループリーダーが解説を入れていきますので、初めての方でも参加可能です。お気軽にご参加ください。

自主企画ワークショップXI

10:45～12:15

中会議室 301B

治療継続を支えるグループ ～依存症治療から考える～

企画者：片岡 圭美（医療法人社団綾瀬病院）  
加藤 祐介（特定医療法人群馬会赤城高原ホスピタル）  
宮城 崇史（京都桂病院／児童心理治療施設ももの木学園）  
田辺 等（北仁会旭山病院）

概要：依存症治療の中で、集団認知精神療法が保険点数化されたことに伴い、集団認知行動療法が依存症治療のスタンダードになりつつある。テキストを利用した治療は、対象者が短期間で知識を得られ、また治療者側も一定の水準の治療を提供できる印象がある。しかし実際の臨床場面は、集団認知行動療法だけでは対象者の病理の本質にたどりつきにくいと感じる場面も多い。そこで、集団精神療法を背景に持つ我々が依存症のグループを行う際に留意している点や、集団精神療法を基盤とするアプローチの在り方について考え、参加した依存症の治療に関わる全ての人々と、依存症治療の現場でグループをどのように生かしていけばよいかを話題にする。大きくは2つのテーマで話題提供後に、全体でグループディスカッションをする。

シンポジウム

13:30～16:30

メインホール B・C

グループが生まれるとき

司 会：小川 悠介（特定医療法人群馬会群馬病院）  
シンポジスト：白波瀬 丈一郎（東京都済生会中央病院健康デザインセンター）  
□グループが「生まれる前」を考える  
松井 朋美（特定医療法人群馬会群馬病院）  
□グループは生まれるものなのだろうか ー主体と選択性という観点からー  
山口 真一（国際大学）  
□ソーシャルメディアの特徴とグループ  
横川 明子（個人開業）  
□ダンス・ムーブメントセラピーグループの特徴  
モデレーター：岩崎 壮登（特定医療法人群馬会群馬病院）  
大橋 良枝（京都文教大学）  
加藤 隆弘（九州大学大学院医学研究院精神病態医学）

概 略：大会テーマをめぐり、前半はシンポジストたちにご発表いただきます。精神科臨床における現場からの報告、組織運営に関与する中で見えること、異文化を生きる身体の体験、ソーシャルメディアが映し出す個と社会など、4人の専門家が異なる波紋を私たちに投げかけてくれることでしょう。後半はシンポジストたちと参加者の間をつなぐ3名のモデレーター（司会・仲介・促進する人たち）を交えて、会場全体で対話を深めていきたいと思っております。質疑応答はもちろん、発表を聴いて受けた触発、自由な感想、連想などが豊かに広がる場が育まれることを願っています。皆さまの積極的な参画を心より楽しみにしています。

## シンポジストプロフィール

白波瀬 丈一郎（しらはせ じょういちろう）

1986年4月 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室入局。

個人精神療法の実践の傍ら、病棟運営、コンサルテーション・リエゾン活動、学校精神保健活動などを通して組織支援に従事。

2009年4月 職場復帰支援プログラム「KEAP（Keio Employee Assistance Program：キープ）」を開発。1万人規模の企業と契約して事業開始。

2020年4月 東京都済生会中央病院に就職、健康デザインセンターセンター長に就任。

組織支援としての産業精神保健事業に加え、「働きやすい病院づくり」に従事。

松井 朋美（まつい ともみ）

精神保健福祉士。社会福祉士。特定医療法人群馬会群馬病院精神保健福祉課長。日本集団精神療学会認定グループサイコセラピスト。心のサポーター指導者。群馬県精神保健福祉会倫理委員会委員長を務める。現在、精神科病院で働きながら、主に群馬県内に向けてメンタルヘルス領域の啓蒙活動を行っている。心理的安全性の高いチームづくりや、患者の権利擁護に強い関心を持ち、その実現に向けて取り組んでいる。

山口 真一（やまぐち しんいち）

博士（経済学）。専門は計量経済学、社会情報学。テレビや新聞にも多数出演・掲載。電気通信普及財団賞など数々の賞を受賞。おもな著作に『ソーシャルメディア解体全書』（勁草書房）、『正義を振りかざす「極端な人」の正体』（光文社）等。他に、シエンプレ株式会社顧問、日本リスクコミュニケーション協会理事、早稲田大学ビジネススクール兼任講や、内閣府「AI戦略会議」など複数の政府有識者会議委員等を務める。

横川 明子（よこかわ あきこ）LPCC, BC-DMT, GL-CMA

慶應義塾大学総合政策学部卒、米国イリノイ州 Columbia College Chicago にて修士課程修了。

カルフォルニア州 Licensed Professional Clinical Counselor、アメリカ・ダンスセラピー協会認定ダンスセラピスト、ラバン動作解析士。現在は京都在住。個人開業を通してエキスパートや交換留学生など主に海外の方々を対象に臨床活動をしている。米国 Lesley University にてクリエイティブアーツセラピーを学んでいる学生対象に非常勤講師としても活躍中。